

道しるべ地蔵

この地蔵は、1806 年頃にこの地に安置されたもので、昔の交易路沿いにあることから、旅人の道しるべとして重宝されてきました。右の道は東京方面へ、左の道は山へと向かいます。刻印には「右は江戸」（東京はかつて江戸と呼ばれていた）、「左は山道」（*Yamamichi* とは「山の道」の意味）と彫られています。

地蔵と旅人との間には、強い歴史的なつながりがあります。これらの石の守神は、多くの場合、ウォーキングやハイキングのルートに沿って方向を示す目印や経路として機能します。また、子供を守り、通行人に幸運を与えとも言われています。

19 世紀初頭に長岡を訪れた多くの著名な旅行者は、旅の途中で道しるべ地蔵のことを口にしています。今もなお、摂田屋地区を行き交う人々に幸福を与え、道しるべとなっています。